

牧師所感：能登半島地震に命奪われた人々を悼む —御遺族の悲しみを共に悲しむ—

2024年1月1日、誰も予期しなかった強い地震が、石川県能登半島を襲った。即座に警報が鳴り響き、津波を避けて高い所に避難して、命を守るようにと促された。今度の地震は横揺れが激しく、殆どの家屋は倒壊し、大勢の人々が命を失った。尊い命が240人も犠牲になった。御遺族の悲しみは如何ばかりであろうか。亡くなられた方達を悼み御遺族の慰めを祈る。

さて、今から十数年前、3・11の東北地方を襲った地震と津波によって、夥しい人々が犠牲になった。その時の筆者は今より若かったので、直ちに宮城县を訪れて石巻やその他の地方の人々を問安することが出来た。

ところが今度の地震においては、身体が老人（91）になり、物理的な活動は無理で、石巻の韓国からの宣教師趙ヨンサン牧師に、少額と物品を贈り届けて問安するように頼んだ次第である。

さて、未だに苦しむ被災地の住民の御家族の消息をNHKや他の放送局、日刊新聞に詳しく報道されている。筆者は朝日新聞の読者である。数日前NHK放送で知ったのだが、大間圭介氏は地震によって、妻と三人の子どもを失ったことの悲しみを伝えてくれた。この報道により、この地に残された大間様の悲しみに神さまは深い慰めを与えて下さいと、心を痛め乍ら祈る。

ところで朝日新聞2月2日夕刊に「地震で妻子奪われ棺の間で眠った」記事である。内容は愛する妻（43）や息子（9）を失った会社員角田貴仁さん（47）は、自衛隊によってやっと金沢の葬儀場へ運んでもらって葬儀直前まで何日も2人の間に川の字になり、夜を過ごしたと言う。今も家族と共に寝た寝室には泊らず、リビングのソファで横になると言う。

あゝ、何という悲しみ、無念の兄弟を如何に慰められるか。筆者に出来ることは、当人達に取っては知る由もないが、筆者の祈りによって当人達に少しの慰めが風に乗って伝えれば幸いである。

はらから
神よ、今度の地震で同胞を失った人々を慰め給え！！！